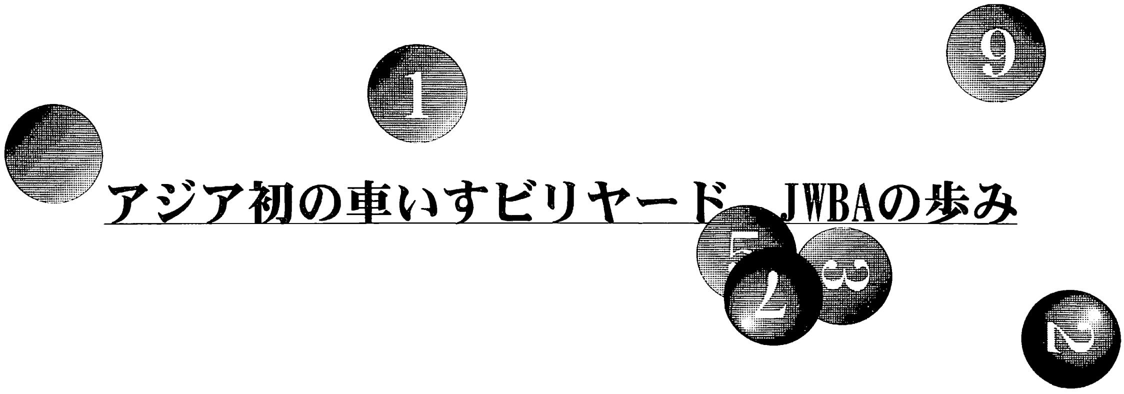
ＫＳＫＱ第三種郵便物認可＜サロン・あべの＞通巻４２８６号２００３年12月20日

アジア初の車いすビリヤード　JWBAの歩み



〈サロン・あべの〉11月の出会い

〈サロン・あべの〉11月の出会いは、平成15年11月15日（土）午後1時～4時、育徳コミュニティーセンター2階研修室に、城谷たけおさん（次頁・写真）をお迎えして「アジア初の車椅子ビリヤードＪＷＢＡの歩み」と題して、「日本車椅子ビリヤード協会」（以下ＪＷＢＡ）創設の「起・承・転・結」を伺いました。

－起－

私には重度の障害を持ったいとこがいましたが、その子の家に行ってもなぜか近寄り難い思いを持っていました。その後私はアメリカの大学に留学しました。その滞在中にそのいとこが亡くなったことを知り、どうしてもっと理解しようとしなかったのか、もっと親しく出来なかったのかと後悔しました。その後の大学院在学中はハンディキャップのある人たちと交流を持ち、ボランティア活動を積極的にしてきました。

私は、ビリヤードが好きでプロのライセンスを取りました。デビュー戦はアメリカのＵＳＡ全米オープンの試合でした。その時の対戦相手が車いす使用者で、最初は上手ではないかもとか、手を抜くことも考えに入れなかったわけではなかったのですが、結果は、とことんやられて、目が覚めました。アメリカのビリヤードは障害の有無に関わらず対戦できるのです。これは正にバリアフリーのスポーツであると感動しました。日本に帰り早速、「車いすビリヤード」を調べてみましたがそのような情報はなく、日本ビリヤード協会に問い合わせても「車いすビリヤード」はないと言われました。

一九九一年九月三日第三種郵便物認可（毎日発行）

それで「ＪＷＢＡ」をと陳情書を出しましたが、そんな余裕はないとの返事が返って来ました。それなら、自分でやるしかないとパソコンのホームページを作るなど、行動を起こしたところ、全国から問い合わせが来たり、車いす使用者でビリヤードをしている人からも連絡が入りました。車いすでビリヤードをしている人たちは、日本では自分一人だけだと思っていたと言われました。こうして「ＪＷＢＡ」をスタートさせ、数カ月後には「日本車いすビリヤード大会」を開催する運びになりました。日本中の人をつなぐ考えで行動を起こしたのですが、周りの人は売名行為や、福祉に名を借りた金儲けではと、思われました。しかし、何度か会っているうちに心のバリアが解けていきました。第1回の全国大会には10名の猛者が集まり、観戦者も多く、新聞やテレビにも取り上げられ感無量で終えることが出来ました。

ー承ー

全国大会の成功を見届けたところで、私の仕事は終わったと思い、会長職辞任を申し出ました。これで私が売名や金儲けを目的に「ＪＷＢＡ」を設立したのではないことを知っていただきました。車いすビリヤードは、ハンディを乗り越えて真剣に試合をすることで心のバリアフリーが生じてきます。片腕の人も補助具を使いプレーが出来ます。大阪の人は元気で積極的です。「ＪＷＢＡ」はＮＰＯ運営になり、車いすプレーヤーの人も選手だけでなく、運営にも参加して社会貢献をしているという自信も持つようになりました。

ー転ー

日本の車いすプレーヤーも実力が備わって来て、全国大会で優勝した人は世界大会に出場出来るまでになりました。世界選手権で3位入賞者もおられます。健常者と障害者というハンディなしで対等に戦える競技であると言えます。技術力と精神力が必要なスポーツです。

ー結ー

アジア初の車いすビリヤードです。これを世界に広めて一つにしたい、そしてパラリンピックではなくオリンピックに出場できるのが夢。それまでに国際大会の開催を目標にしています。

お話の後、「日本車いすビリヤード大会」の試合の模様やテレビで取り上げられたニュース番組のビデオテープを観せていただきました。この日参加された方の中にも一般のビリヤードを楽しまれていた方が何人かおられて、ビリヤードの奥深い魅力を語っておられた反面、高級な感じがして入りづらいとか、ビリヤード店のバリアフリー化の話なども出ました。が、ビデオで長居障害者スポーツセンターでも「日本車いすビリヤード大会」が開催されたのを観て、手の届かないスポーツではない、近しい思いを感じた11月の出会いでした。参加者19名（冨田慶子）

訂正・本紙２０９号１頁３段目２行目、プロの写真家に誉められたことがあった。に訂正・お詫びします。

●車いすビリヤードの魅力

中山賢治

私は１９４９年生まれの手動車いす常用の両下肢障害者です。１９７５年、26歳のときスポーツ事故（野球のプレー中）で脊髄を損傷し、以後車いすが私の足になりました。

受傷後1年間の入院生活中は精神的にも落ち込み、ほとんど外出もしない時期でした。が、ある日リハビリの先生の勧めで長居の障害者スポーツセンターに行ったのが障害者スポーツとの初めての出会いでした。

ここで会った車いす常用の友人に誘われ「車いすバスケット」を始めました。おかげで、多くの同じ障害を持った友人が出来、外に出る機会も多くなり、健常者との交流も頻繁に行うようになりました。バスケットで知り合った健常者に教えられ「車いすテニス」もやるようになりました。

「車いすビリヤード」を始めたのは最近の事で、始めたきっかけは仕事上（車いすの販売・障害者用自動車改造）の友人に誘われたものです。

初めてビリヤード場に行った時の事を少しお話します。用具も何も持たなくて良い、というので手ぶらで行きました。そこには7～8人の車いす障害者と3人の指導者らしき健常者が一緒に楽しんでおられました。私の姿を見つけて指導者のリーダーらしき人から「一緒にやりましょう」と気さくに声をかけていただき、キュー（球を突く棒）を貸してくれました。プレーをしていた皆もすぐに場所を空けてくれ、私と指導者のマンツーマンになってしまいました。私は内心、「ど素人のへたくそだし、ルールもわからないのに困ったな～」、なんて思っていると、指導者が言いました。「最初から上手な人はいないから楽しく球を突きましょう。楽しければいいんです」この一言で気持ちが楽になり、言われるままに球を突きました。球を突くたびに指導者から出る言葉は「うまい」「すごい」「上手やね～」などのほめ言葉ばっかり。単純な私はいい気になり、ちょっとだけと思っていたのに時計を見たら3時間が過ぎていました。

私は今まで「バスケット」や「テニス」といった動き回るスポーツを好んでやってきましたが、今回「ビリヤード」をやって感じた事は、「ビリヤード」は激しく動く事はありませんが、非常にメンタル面が要求される競技です。激しく動く事はないので四肢に障害を持つ人でも工夫次第で楽しめる競技だと思いました。そして指導者が言ったように「上手でなくても、楽しかったらいいんだ」の言葉には共感を覚えます。

あなたも「車いすビリヤード」を通じて人の「和」を広げませんか？

●垣根なしで競えるスポーツ

紀元前４００年の頃、ギリシャで始まった戸外スポーツで、円錐型のものへ丸い石を棒で突き当てる競技がビリヤードの原型という説と、その他に紀元14～15世紀にスペインに起った説、あるいはイギリス起源説、フランス起源説などいろいろあるようですが、いずれにせよ、一般的にはクロッケーが室内化したものと言われています。

日本では、嘉永年間にオランダ人が長崎出島でビリヤードを楽しんだとあります。明治４年、日本で最初のビリヤード場が東京に開かれました。そして国産の球台が初めて作られたのが明治10年でした。以後、ビリヤードは、欧米はもちろん日本でもどんどん興隆していきます。

「キューで球を突く」ということさえ可能であれば、身体に部分的な障害を持った人でも、楽しむことの出来るスポーツとしても普及・浸透し、欧米では車いすに乗ったままでプレイする人のための公式試合があります。欧米ほどではないにしろ日本でも行われるようになってきました。

競技を進める上でのルールは健常者のそれと何ら特別なものはありません。

アメリカビリヤード協会のルールブックでは、車いす選手の競技会のためのルールを次のように規定しています。

＊分類

Ａ　手または腕の障害のため、安定したブリッジ（レスト）を組めない人

Ｂ　ブリッジは組めるが、下肢の筋力の問題により、上体を安定させることが出来ない人

Ｃ　プレーする上で、立ったままでプレーすることが出来ない程度の障害があっても普通に上体を支えることが出来る人

＊ルール一般

１　ショットの際、車いすに座ったままの状態でなければならない。

２　両足は床から離れていなければならず、足または足を乗せる台が床に触れた状態でのショットはファールとなる。通常のルール（両足が床から離れたままでショットしたらファール）とは逆の規定となり、車いすに座ったまま、足は、床から離れたフットステップに乗せられていなければならない。

３　分類のＡに属する人は、審判にブリッジや補助器具についての援助を求めることが出来る。

４　腰から上をベルトで固定することは、医学的理由がない限り許されない。

と、あります。

とはいえ、いろいろあるスポーツの中でこれほど障害の垣根を感じないで出来るスポーツはビリヤードをおいて他にないのではないでしょうか。（石）

参考：日本ビリヤード協会ホームページ

誰でも参加できる場所へ

第19回

面白いこと１人占め

林　典生

龍谷エクステンションセンター京都と八幡市生涯学習センターが共催のコミュニティガーデンづくりの講座が開催出来るかどうかについて、今回ご報告することになっていましたが、結果は、半分開催出来て、半分開催出来ませんでした。ということは、申し込みが３名だったので、共催講座は開くことは出来なかったのですが、ＮＰＯ法人ディアレストと八幡市生涯学習センターのご好意により開催出来ることになりました。

そのことで関係者の皆様にご迷惑をかけてしまい、何とかしないといけないなあと気になり、サポーターさんにもお詫びしなければと思いながら、コミュニティガーデンに行きましたところ、「開催出来たからいいんじゃない」と言っていただき、ホッとしました。

私自身、あまり行けなくて、コミュニティガーデンがどうなっているのか、心配していましたが、ディアレストのメンバーやサポーターの方々が日夜しっかりと管理されていて、秋が深まるにつれてますますきれいになっています。車いす対応の、高さ60センチの机型の持ち上がり花壇も出来上がり、かなり楽しい講座が出来るなあと思っていました。ところが、いざ開講という段になると、申し込み３名の中、２名の方が急用で来られなくなり、出席は１名でした。

私とこの受講生及びサポーターで、持ち上がり花壇に入れる土を配合し、葉がゴマの味がするルッコラとハツカダイコンの種を蒔きました。気候もよく、楽しみながら作業ははかどりました。一方で、野菜やカキを山のように収穫もしました。

ひと区切りついたところで、以前収穫して倉庫に保存していたサツマイモを焼きながら、「今日蒔いた野菜は結構収穫が早いんですよ」とか「９月にコメは１００キログラムも収穫できたのに、販売することは出来ないんです。食管制度という堅苦しいものがあるんですよ」などと、話に花が咲きました。

今後の予定として聞いたのですが、温室を建て、冬になっても作業が出来るようにする話があります。それに、もしかしたらコミュニティガーデンの前にあるナシ畑を管理する話もあるとのことでした。結構広がっているのですが、管理が大変だろうと思います。

最後に、八幡市在住の方、近隣の方、ぜひ一度コミュニティガーデンディアレストに遊びに来ませんか。結構楽しいですよ。

サロンの
一筆箋
一冊一〇〇枚綴　一五〇円

□育った家族を見る

社会福祉の現場で誰かを援助するとき、どうしても家族と向き合うことになる。というのも、人は家族とともに生きていて、その人を助けようとするとき、その家族のことも考えなければいけないからである。

家族とともに暮らしている人を援助するときには、それは当然のことだが、一人暮らしの人を援助するときにも、やはり、そこにはいない家族のことを忘れてはいけない。遠く離れている家族のことをどう思っているのか、それを理解することで、その一人暮らしの人の世界も見えてくる。なかには家族はすべて死んでしまい、自分だけが生き残っている人もいるだろうが、その場合、その人の脳裏だけに生き続ける家族と対面することになるだろう。

私が社会福祉学科の教員として、学生たちに強調しているのは、こういうことだ。つまり、人を援助するときには、その人の家族とも向かいあうことになる。家族は遠く離れていたり、あるいは死んでしまっていたりするかもしれないが、それでもその人の世界の根底には家族がある。そして、その家族を理解しようとするとき、実は自分たち自身の家族と重ね合わせてしか理解できないのである。

たとえば、一組の男女がいて、その間に子どもがいるという簡単な図式を家族として描いてみても、その中身として思い浮かべるものは個々人によって大きな差がある。

夫婦という言葉が連想させるものは仲睦ましい関係だけではない。形だけの冷たい、あるいは刺々（とげとげ）しいつながりかもしれない。また、一方が他方を押さえつけた痛ましい姿かもしれない。それは己が両親の様子によって決められているのである。

善きにつけ悪しきにつけ、自分を育ててきた両親の姿を基準にして、私たちは夫婦というものを考える。ああいうふうにはなりたくないと思ったところで、やはりそれは忌避（きひ）の基準になっている。

＊好評のエッセイ＊

岡　知史著

知らされない愛について　７００円

ほんの少しの神に近い部分　７００円

ききみみずきん

親子関係もまた同じく、私たちは自分自身の親子関係を基準に、他者の親子関係について判断を下している。近隣関係、親族関係がますます希薄になっている今日においては、他の親子関係をかいま見る機会が減り、その結果、自分が育った親子関係を基準として見てしまう傾向はいっそう強くなっているのに違いない。

しかしながら自分だけの基準で、相手を理解しようとしても無理である。自分の基準が他の人と比べてどうなのか、それを知るためには、まずは他の人の基準、すなわち親子関係や両親の夫婦関係を知らなければいけない。そして、そこから自分自身の親子関係や両親の夫婦関係を細かく点検してみるのである。

仲が良かったとか、悪かったとか、そのような単純な理解では充分ではない。どのように自分の意思を伝えていたのか、どのように相手の気持ちを変えようとしていたのか。そういった細かな点まで吟味していくことによって、援助の専門職として人に向かい合う準備ができてくる。詳しくはまた機会があれば、書いてみたい。

（知）

ありがとうございました。

カンパ、切手・お茶菓子・タオル・小物雑貨・ビデオテープのご寄贈、サロングッズのお買い求めなど、ありがとうございました。

（敬称略・順不同）

神城昭子、佐々木良子、城谷たけお、S・T、生野智子、田中美砂保、中谷邦子、中野咲子、表谷恵美子、その他の方々。

思い出

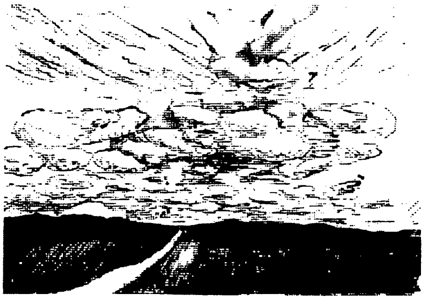
今年も残り少ない日々になりました。振り返ればサロンでの12回の出会いは、いつも楽しく新鮮な出会いでした。また、その他の日々も忘れがたく全てを心の小引き出しにそっと納めて、思い出すままに取り出して楽しめる自分を持っていたいと思っています。しかしながら、加齢による忘却という言葉を考える時、小引き出しのカギをどれだけ手元に持てるか不安がよぎります。が、その不安を吹き飛ばす笑い声が響いているある日があります。この日だけはどんなことがあっても忘れないでしょう。その日私は、和歌山県の中学2年生が福祉教育の一つとして来阪し、障害者と交流を持ちながら市内の希望の場所を見学するという交流会に参加しました。私の班は海遊館希望でした。電動車いすの私と視覚障害の男性が女子３名と男子３名のグループに合流して、谷九から地下鉄に乗り、谷四で乗り換えて海遊館に行きました。大阪に住みながらそのようにして行けると知ったのは、その日その時が初めてでした。生徒さん方は元気に走り回り行き先を確かめながら、私たちに気遣いの声かけをしながらサポートしてくれました。イルカやアシカの泳ぎっぷりに一諸になって声を上げたり、お昼も同じオムレツを食べたり、3時間半はあっと言う間に過ぎました。が、この濃密な時間は思い出すたび心がほこほこになってきます。次回は大観覧車に乗りたいと思い出を温めています。

（け）

晴れのち晴れ 63

この１年をふり返って

稲垣恵雄



この１年をふり返ってみると、さまざまなことが走馬灯のように浮かんでくる。うれしかったことも楽しかったこともたくさんあった。逆に悲しかったことも辛かったことも少なくない。

そんな中でも私は１年ごとに身体の弱っていくのが顕著になり、身にしみてこたえるのである。「障害者は健常者に比べて１０年も２０年も身体が弱っていくのが早い」とよく言われるが、本当にそうだと思う。

このように身体が弱ってくるとどうしても不安で弱気になり、ともすれば「もうどうにでもなれ」と自暴自棄におちいる。そうすると大げさではないが、これからの人生の方向と目的が見失いがちになる。だから時々「そんなことではだめじゃないか」と自分自身を叱咤激励することにしている。

ある人が「真の宗教とは、常に不満と不安を感じつつ生活し、空しさをかみしめて生きている私たちに確たる充実感を与え、いかなる生きざまをしようともそこに確固たる目的と方向を見い出すことができる」と言われている。この一文を読んで、なるほどとうなずくことができるのだが、果たして真の宗教とは一体なんだろう、と考えてしまう。

いずれにしてもどんなことが起こっても生きていく方向と目的だけはしっかりと抱くようにしたいと思う。それにいくら身体が弱ってきてもいろんな人のおかげでこの１年も無事に過ごすことができたのだから、感謝の気持ちだけは忘れないようにしたい。

サロンの
絵はがき
５枚１組　￥１８０
<サロン・あべの>の活動資金調達にご協力お願いします。

◆ 植物あれこれ

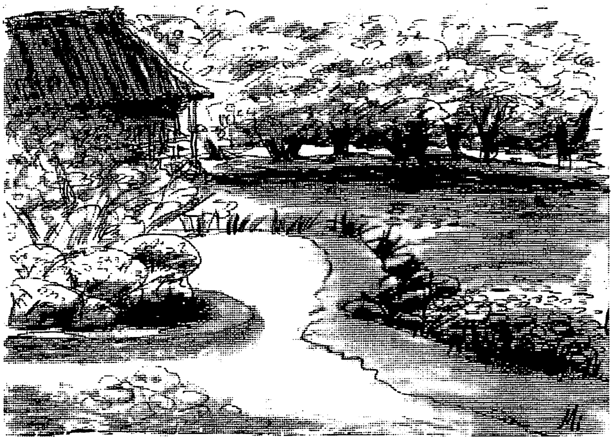
５９

山口康二郎

アスファルトを押し上げて芽を出すトクサ

友人を訪問するため八戸里駅を降りて、路地を曲がって何気なく足元を見てびっくりしました。真新しく舗装したアスファルトを突き抜けてトクサが10数本芽を出しているではありませんか。草花が芽を出すときの圧力は、普通車のタイヤの圧力にも勝ることは知っていましたが、目の前にその光景を見て、改めてびっくりし、目下、師匠として尊敬する山田先生（テクノホルティ園芸専門学校名誉校長）にその話をすると、植物の種はエチレンをたくさん蓄えており、そのエチレンは二つの相反する作用をする。一方では、発芽を抑制する働きをし、もう一方では発芽を促進する働きをするのだそうです。

エチレンによって種は発芽の時期が来るまで、じっと耐えるように命じられており、季節が到来して土中に蒔かれれば、土の圧力で、一転発芽せよとの命令が掛かるとエチレンを最高に働かせてアスファルトをも突き破る圧力で伸びていくのだそうです。



植物はいろいろな化学物質を生産して同種あるいは他種の発芽や生育を阻害していることが知られており、これを「アレロパシー」（他感作用）と呼んでいますが、このエチレンも余り密に蒔きすぎると隣の苗や、自分の出したエチレンによって成長を妨げられ、時としてはマイナスに働く場合があります。

種を蒔くときはどうしても密に蒔きますが、そのままおいておくと全体の苗が貧弱なものになってしまいます。この害をなくすために苗と苗の間の間隔を保つために間引きが必要になるわけです。

せっかく芽を出したものを引き抜くことに些かの後ろめたさを感じられる方があるとしたら、それは決して悪いことではなく、丈夫な苗を作るために必要なことなのだと了解いただきたいと思います。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

トクサ：耐寒性常緑樹。日本庭園の池や石組みの点景としてよく使われる水辺の草。

美智子のこんな話

岸田美智子

新刊「当事者主権」の紹介

多様な価値観が生まれ、混迷している現在の一つの指針になりそうな本が出ました。

著者は、全国自立生活センター協議会の代表でかの有名な中西正司さんと、女性問題ではこれまた有名な上野千鶴子さんです。

大阪でもこの間、活発に展開されてきた障害者の地域での自立生活運動の中から生まれてきた自立生活センター、そして障害者の事は障害者自身が誰よりも理解でき専門家であるという考え方のピアカウンセラーなどの位置づけや特徴は、共にこの本のタイトルである「当事者主権」の考え方から生まれているのです。このような流れは、この社会の中でいろいろな分野で起こりつつあります。その動きが今、繋がり合って大きな変革の力になりつつあると思います。

この本の序章に「今、障害者、女性、高齢者、患者、不登校者、そしてひきこもりや精神障害者の当事者などが元気である。能率、効率がもっとも尊ばれる社会の中にあって、最も適応しなかった人たちの集団、庇護と管理の下に置かれたマイノリティーと言われる人たちである。そこから自立生活運動、フェミニズム、レズビアン&ゲイ解放運動など、当事者を担い手としたユニークな活力あふれる活動が生まれ、社会に大きな影響を与えつつある」とあります。

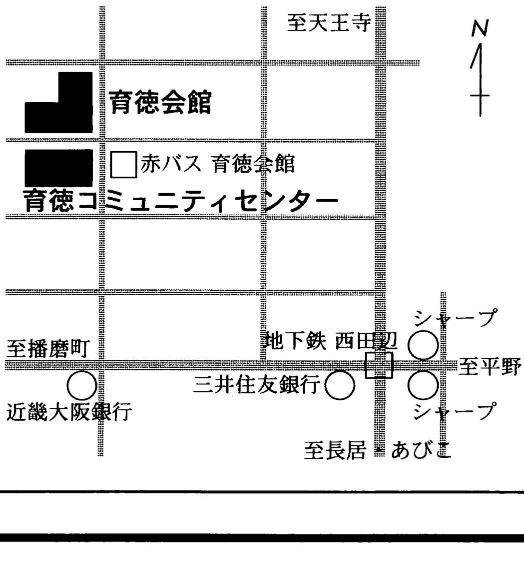
とても読みやすく整理されています。みなさんも読まれてはいかがでしょうか。

☆岩波新書　700円　約200頁

お知らせ

<サロン・あべの>1月の出会い

内　　容…音と香りのハーモニーinサロン
～新春、癒しの音楽会～
お客さま…演奏者：アンダンテ
アロマ職人：精英樹（せいえいじゅ）
企画：福祉イベント夢企画「結（ゆい）」
日　　時…1月17日（土）午後1時～3時30分
場　　所…育徳コミュニティセンター2階
研修室（スロープ・車いすトイレ有）
大阪市阿倍野区阪南町5-15-28
TEL　06－6621－1901
最寄り駅＝
地下鉄御堂筋線「西田辺」
赤バス「育徳会館」下車すぐ
会　　費…なし
問い合わせ先…
TEL 06－6691－1028（冨田慶子）



SALOON 隣組ニュース

■「サロン淀川」1月の出会い

日　　時：1月18日（日）午後1時30分～4時
内　　容：生まれ変わっても私でありたい
～先天性骨形成不全症障害でもかまわない、今の幸せな人生に感謝しています～
ゲ ス ト：米村朋子氏（吹田市自立生活センター・フリーで生活支援・講演活動）
場　　所：やすらぎ
大阪市淀川区三国本町２－１４－３
会　　費：なし
問い合わせ先：淀川区社協（ボランティア・ビューロー）☎０６－６３９４－２９００
E-mail：sorajii@iris.eonet.ne.jp

■「サロンひらの」1月の出会い

日　　時：１月２４日（土）午後１時～４時
内　　容：障害者昨今の事情と20年の歩み、今後の展望
パネラー：松葉作治氏（マツサク・グループ代表）
場　　所：にこにこセンター
大阪市平野区平野東２－１－３０
平野区在宅サービスセンター３階
☎０６－６７９５－２２００
会　　費：５００円
問い合わせ先：安達☎０９０－７７５５－７８９９

■「サロン・にし」1月の出会い

日　　時：１月１０日（土）午後１時30分～4時
内　　容：みんなで「書き初め」と
「かるた」を楽しみましょう！
場　　所：西区在宅サービスセンター６階
ボランティア・ビューロー室
大阪市西区新町4-5-14　（西区役所隣）
地下鉄＝西長堀駅 4-A号 出口からすぐ
市バス＝地下鉄西長堀駅からすぐ
☎０６－６５３９－８０７５
会　　費：なし
問い合わせ先：関口☎０９０－４２８１－５６４１

■「サロン・にしよど」1月の出会い

日　　時：１月２４日（土）午後１時３０分～
内　　容：二つの言葉で一緒に歌ってみませんか
ゲ ス ト：手話コーラスグループと
コーラスグループ「すずらん」の皆さん
場　　所：ふくふく
大阪市西淀川区千船２－７－７
西淀川区在宅サービスセンター
☎０６－６４７８－２９４１
会　　費：なし
問い合わせ先：中本☎０９０－９８６４－９６７８

■「ウイズ東淀川」1月の出会い

日　　時：１月１１日（日）午後１時30分～４時
内　　容：新春ミニ・コンサート＆カラオケ大会
出 演 者：スイートポテト（佐藤隆雄さん＝ギターとボーカル、佐藤里美さん＝フラットマンドリンとボーカル）、
宇根山義弘さん（ハーモニカ独奏）
場　　所：ほほえみ
大阪市東淀川区菅原４－４－３７
東淀川区在宅サービスセンター
☎０６－６７３０－１６３０
会　　費：なし
問い合わせ先：鈴木昭二
☎０６－６３４０－３０８２
FAX０６－６３４０－３０１２

■「サロンいたみ」1月の出会い

日　　時：１月１７日（土）午後２時～
内　　容：ハーブのお茶とリース作り
場　　所：「伸幸苑」　伊丹市寺町６－１５０
会　　費：なし
問合せ先：砂脇☎０７２７－８４－００５７
（午後７時以降）
「サロンいたみ」２月・３月はお休みです。

ＫＳＫＱ第三種郵便物認可＜サロン・あべの＞通巻４２８６号２００３年１２月20日

声で読書のお手伝い

音訳テープのご案内

音訳グループ「糸でんわ」のご協力で〈サロン・あべの〉紙第209号の音訳テープが出来ました。

■音訳テープ文庫

(a) 〈サロン・あべの〉紙は、第１号より第209号までそろっています。
(b) 〈サロン・あべの〉十周年記念誌「はあとが、はろー！」
(c) 絵本「未知の記憶」（作・絵 中川勝彦）
(d) 「ラジオたんぱ」放送「〈サロン・あべの〉平成7年5月の出会い」放送分（３０分）
(e) エッセー集「逃げた『ヨナ』～ボランティア活動の周辺～」（岡本栄一著＝糸でんわ音訳）
(f) 「キミたちだけじゃ困るんだ～身障者だけで旅した十余年～」（山田誠１９９５・２・２２著 ＝糸でんわ音訳）
(g) 「金子みすずへの旅」（島田陽子著＝糸でんわ音訳）
(h) 「夕やけ空のオニヤンマ」（牧口一二著＝糸でんわ音訳）
(i) 「ガベちゃん先生の自立宣言」（曽我部教子著＝糸でんわ音訳）
(j) 「セルフヘルプグループ」（岡知史著＝糸でんわ音訳）
(k) 「名物　天王寺かぶら」（猿田博創作　難波利三監修＝大阪市立天王寺図書館制作）
(l) 「知らされない愛について」（岡知史著＝ぽけっと音訳）
(m) 「愛　ひとり旅」（奥田真祐美著＝糸でんわ音訳）
(n) 「奥田真祐美のシャンソン手帳」（奥田真祐美著＝糸でんわ音訳）
(o) 「もうちょっと知っとく？　私たちの阿倍野」（難波りんご著＝糸でんわ音訳）
(p) 「猫とシャンソン」（奥田真祐美著＝糸でんわ音訳）
(q) 「ほんの少しの神に近い部分」（岡知史著＝糸でんわ音訳）
(r) 「勁くしずかに」（河野勝行 編・著＝糸でんわ音訳）
(s) 「たまごが　ポン！」（稲垣恵雄著＝糸でんわ音訳）
(t) 阿倍野名所旧跡いろはがるた（猿田博＝糸でんわ音訳）
(u) 交わりのなかで　～ホームヘルパー残像～（加藤みどりさんを偲ぶ文章を作る会著＝糸でんわ音訳）

ご希望の方には、ダビング、または貸し出しをしますので、冨田（☎０６・６６９１・１０２８）まで。

寄りみち

40数年前、誘われて撞球初体験をしました。最初は球を撞いているだけで楽しかったのですが、通ううちにこれだけでは飽きたらず、イングリッシュ、ストップ、ジャンプなど高度なテクニックが使えればもっと楽しいだろう。と、１ランク上を思いましたが、「キューでラシャを破いたらえらいこっちゃで・・・」の一言で渋々。もし続けていたら今頃は超一流のハスラーに。なってるわけないか。（石）

<サロン・あべの>VOL. ２１０　発行：平成１５（2003）年１２月２０日　定価￥１００
編集人：<サロン・あべの>運営委員会　表題：中西利香・筆　文中イラスト：石田美禰子
事務局：〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町６－３－２６ 冨田慶子方<サロン・あべの>
TEL・FAX 06-6691-1028　郵便振替口座：サロン・あべの 00950-9-26941
印　刷：セルフ社 〒546-0044 東住吉区北田辺町 4-23-2 ミスターＤビル２Ｆ TEL06-6719-8212
本紙はホームページでもお読みいただけます。書庫は、http: //pweb.sophia.ac.jp/~t-oka/salon/

発行人：関西障害者定期刊行物協会［大阪市城東区東中浜2-10-13緑橋グリーンハイツ１Ｆ］

一九九一年九月三日第三種郵便物認可（毎日発行）